

さ SA く KU ら RA



June. 2019

発行/ボーイスカウト世田谷第5団広報部

ビーバー隊

5月12日 シーターポン作り

ビーバー隊隊長 草嶋隆行

恒例のシーターポン作りと基本動作、ソングを行いました。まずはシーターポンに入れる絵を書きます。2人のスカウトがそれぞれ大変個性的な絵を描きました。一人はお尻に敷く、ということで便器を、もう一人は机に敷いた新聞広告のおじさんをそのまま描きました。二人とも絵のクオリティーがとても高く、例年題材が思い浮かばなかったり描くのを嫌がるスカウトが出るのに比べるとかなりサクサクと作業が終わりました。ビニールを毛糸で縫うのも順調に進み、無事にシーターポンが出来ました。

その後は天堂副長による基本動作とソングの練習。2人しかいないせいか、恥ずかしがってあまり声は出ていませんでした。ソング、基本動作共、仲間が増えた時の見本になるように頑張ってくれば、と願っております。



5月19日 ビーバーラリー

ビーバー隊隊長 草嶋隆行

年に1度、世田谷のビーバースカウトが集まるビーバーラリーです。今年は木の葉章の色にちなんだゲームをクリアしていきます。参加人数は2人でしたが、上進したスカウトの弟君とその保育園友達が5人見学参加してくれました。おかげさまで少し賑やかになりました！天気の良い中、広い砧公園の中でゲーム以外にも4団と合同でのフリスビーなど盛りだくさんの一日でした。普段は小さな自隊しか見えてなくてもあれだけいっぱい仲間がいるんだ、と気付いたと思います。2人とも運動会の翌日にもかかわらず、怪我なく元気に過ごしてくれました！



カブ隊 5月12日 デイキャンプ@野毛

カブ隊 副長 中村静香

爽やかな五月晴れの下、今年も恒例のデイキャンプを行いました。
メニューは、カレー、シチューと続いたので今年は豚汁うどんと焼きリンゴにしました。
各組毎に等々力で豚汁の具材の食材を買って貰いました。事前に豚汁の基本的な材料と作り方を伝えた後、具材は何を入れても良くオリジナルな豚汁を作って貰いました。
具材にアスパラガスや白滝、スプラウト、隠し味にバター、揚げ玉、ゴマ油を入れたり、味見が楽しみだなあと思って見ていました。採点の結果、ゴマ油とバターを隠し味に入れた3組が味で1位になりました。作った豚汁の材料や隠し味、工夫した点を組毎に発表してもらい どの組も美味しい豚汁うどんが出来上がりました。
味の他、協力、工夫した点等総合的に審査した結果、3組が優勝しました。火おこしや包丁を使った調理はご家庭でやる機会が少ないと思うので 良い体験になったと思います。

1組 くま [REDACTED]

3位で残念だったけど、とん汁はとてもおいしくできたと思う。とん汁うどんも本当においしかった。

2組 くま [REDACTED]

みんなと相談して食材を決めたりして、楽しかったです。出来上がった豚汁はくせになる美味しさでした。マッチを擦って火がついたけど、カマドに入れるまでに火が消えてしまうので、難しかったです。



5月26日 自然観察@東高根森林公園

カブ隊 副長 本間千香

5月26日にカブ隊は溝の口にある神奈川県立東高根森林公園にハイク&自然観察をしてきました。
東京は30度越えの週末 今年の上進入隊のスカウトが半数をしめこの暑さの初ハイクでした。
いつもなら4・5キロのハイクなのですが 距離的に今年は2.5キロほどのお試しハイクにしてみました。
午前中の暑さとは思えないほどの気温でスカウトも公園に着く手前あたりで まだ?あと どれくらい?のう



さぎスカウトからの言葉がチラホラと聞こえてきました。実は企画担当の私としてはハイクのパロメーターなのです。(今年は2キロ地点)笑
公園は東京ドーム2個分の広さで アップダウンのある公園の中で 今年もカブブックの履修を目指す活動にしようと思っています。
この活動で うさぎしか くまの項目を全てやってみようという企画。
その中でうさぎの項目の「私の木ゲーム」をスカウトとDLにやってもらいました。下見で やって見たのですが当てられず なかなか難しいのではと思っていたのですがスカウトの五感はなかなかでした。
スカウトらしいゲームもでき 昼食は各組ごとにと指示をだしたのですが 木陰とテーブルとイスのあるいい場所をスカウトたちは選んだみたいでスカウト同士ゲームをして楽しんでた光景は嬉しかったですね。上進入隊のスカウトたちも少しずつ仲間になってきたのかなと これから どんな組になっていくのが楽しみです。
帰りのハイクも暑く 少し遅れ気味のスカウトもいましたが副長のサポートで 全員完歩できて よかったと思います。
これから少しずつスカウト同士 協力 励ましあっていい組になっていってほしいですね。
次回は一泊舎営です。共に宿泊するとまた 団結力がまして 夏季舎営に向けて頑張ってもらいたいものです。

2組 DL 佐藤晃司

大人でもきつい暑さでしたが子供達は元気にハイクに参加してくれました。自然観察ではみんなで助け合いながら探していました。だんだんみんなの仲間意識が高まってきているのを感じます。

4組 うさぎ [REDACTED]

東高根森林公園にハイクに行きました。歩くのはたいへんだったけど、森林公園の中は、とても広く気持ちがよかったです。今度は、ザリガニつりをしたいです。

4組 くま [REDACTED]

今日は、物凄く暑い日でした。
朝は、楽しみしかなかったけど、歩いて行くと足が痛くなったり、汗をたくさんかいて、最後まで歩き切れるか心配でした。
古代植物園に着いて、たくさんの植物を観ました。初めて観るものもあって、とても興味がわきました。そして、それが紙や染料として使われていたことを知って、普段使用している物に使われていたことに驚きました。いつの間にか心配も無くなっていました。
振り返って、本当に暑くて、足も痛くなったけど、皆と一緒に頑張れたことがよかったです。



ボーイ隊

5月12日 御岳山登山 @奥多摩

BS隊 オットセイ班 [REDACTED]

今回は、日の出山・御岳山に上りました。この登山は、パトローリングを意識して登ることが主な目的でした。そのため、登山中は、常に六年生に上級生がついていくこととパトローリングの歌にのっとり順列を心掛けました。オットセイ班は、基本的にこの二つはできていたように感じます。くだりでは、上級生と下級生のペースの差が出てしまい、隊として別行動の様になってしまいましたが、六年生の近くに上級生がいたのは、よかったです。反省としては、あまり楽しく登れなかったことです。次の炊事訓練では、美味しく食べられるものを作るために指示などもしっかりしていきたいです。



BS隊 オットセイ班 [REDACTED]

今回のボーイスカウトは御岳山に登りました。登り始めはみんなが順調に登っていきましたが、だんだん後輩の疲れがでてきて登りきるときにはかなり遅れてしまっていました。今年から入ってきたスカウトは入ってから少ししかたってなくて、山を登る経験も少ないと思うので大変なときには励まして、誰も遅れる事の無いように活動を終わらせられるようにしていきたいです。



BS隊 オットセイ班 [REDACTED]

今日は登山で、御岳山に登りました。まずは日の出山に登ったのですが、日の出山はとてもきつくて、15分でバテてしまいました。日の出山に登ったあと、滝の方へ行ったのですが、滝の水はとても綺麗で冷たい水でした。今回パトローリングやコンパスの基本的な使い方を知れてよかったです。



BS隊 カモメ班 [REDACTED]

今回は、山登りでした。山には今まで何度も登ってきたので、登りは、さほど疲れませんでした。なので、後輩のサポートができました。しかし、下山途中から徐々に徐々に疲れてきたうえ、次の日から運動会の練習があり、その事を考えると、さらに疲れたような気がしました。



BS隊 カモメ班 [REDACTED]

ボーイ隊になって初めて山を登って、最初は元気でいっぱいでしたが、途中から疲れてしまったので、班のみんなについていけませんでした。でも、班長にアドバイスをもらって嬉しかったです。

BS隊 トナカイ班 [REDACTED]

今回の活動は登山でした。登山は久しぶりでしたし、班長として活動したのは初めてでした。とても出席率

が良く、全員出席だったので今回は班じゃなくて全体的な元気玉と水を1リットル多く持って行きました。元気玉はみんなも喜んで嬉しく、予想していた通り、数人水がなくなっていたのであげました。これからの活動において、備えるというのは班長として必ず視野に入れなければいけないことです。登るのが苦手な人もいれば、得意な人もいます。僕は得意でした。自分でも不思議でしたが、筋肉痛にはなりません。主に苦手なのは、下級生です。これは体力的にも、筋肉でも、体型でも僕より劣っています。これは3歳も離れているのかもしれませんが、なので僕は荷物を持ってあげていました。活動というのはふざけて楽しいのはわかりますが、別に楽しさはあると思います。それが、達成感や協力によるものです。カモメ班が体力のある班長だけが先に登頂し、5分後に下級生が登ってくるということが起きていました。正直遅いのはイライラします。でもしっかり側について、助けたりするのが班長の仕事だと思います。しかも最後は、他班の人が面倒を見ていた時がありま

5月19日 炊事訓練 @野毛公園

BS隊 オットセイ班 [REDACTED]

炊事訓練で作ったカレーは、スープ(?)になってしまいました…。その理由の一つとしては、人数が少なかったことだと思いました。当日は三人しかいなくて、役割分担が大変だったからです。(ごはんは大変よくできました！)しかし、スープカレーになっても、最後の評価では30点を取るなど、他の班よりも多く得点を取ることができました。これからも、仲間と協力して、ボーイスカウトに取り組みたいです。

した。良くないと思ったのはこれくらいです。今回の活動は班にとっても、自分にとっても、良い経験となりました。次回にも繋げて生かしていきたいです。

BS隊 トナカイ班 [REDACTED]

御嶽の登山は正直とても疲れたけど2つの山を登ることが出来て自信になりました。

BS隊 トナカイ班 [REDACTED]

僕は御岳山の登山でとてもいい経験が出来たと思いました。なぜなら、カブ隊ではそんなきつくない山しか登っていなかったけれどボーイ隊ではきつい山を登るからです。一番驚いたのは、七代の滝の水がとてもきれいだったことです。汚いのかと思っていただけ、とてもきれいでした。今回、登山がとても楽しかったのでまた御岳山みたいな山に登りたいです。

BS隊 カモメ班 [REDACTED]

久々の炊事訓練だった。今回の活動で、僕は改めて後輩の面倒を見ることの大変さを思い知った。例えば、薪はどのタイミングで、どれぐらいの太さのものを入れるべきなのか教えたのだが、これがなかなかうまく伝えられなかった。もっと成長しなければと思わされた出来事だった。全体的に味も今一つで、もっとボーイスカウトとして成長しなければならないと強く思わされた活動だった。



BS隊 トナカイ班 [REDACTED]

炊事訓練は野毛の公園でやりましたが、カブ隊の時に同様の訓練をした記憶があります。ただ、今回の方が進歩した実感があります。天気にも恵まれた結果かもしれせん。



ローバー隊

| |
|------------|
| 「B-Pとコンサル」 |
| ローバー隊 日笠裕貴 |
| ***** |
| 問題設定、仮説と論証 |
| ***** |

この言葉を聞いて具体的に何かを想像できたあなたは、もしかして研究職かコンサル職の経験者ではないだろうか。私は後者の分野でアシスタントとして働いたことがある。赤坂の某外資系の戦略コンサルティングファームである。

今回は、実際にコンサルティングファームで働く上で役立ったボーイスカウトでの経験を書いていきたいと思う。

ボーイスカウト経験が役立ったと言っても、ロープ結びなどの具体的技術の話では無いし、セレモニーなどで身につけた礼儀作法の話でもない。私が強調したいのは、様々なスカウト活動を通して培った思考プロセスが役に立ったということだ。

それを説明するために、まずは下の問題を解いてみてほしい。

| |
|-------|
| ***** |
|-------|

Q.日本全国の電柱の本数を、紙と鉛筆（計算用紙として）のみ使用して求めなさい。

| |
|-------|
| ***** |
|-------|

このような捉えどころのない量を推定する方法に、フェルミ推定と呼ばれる方法がある。

実際には日本全国の電柱の数は3,300万本程度である。上で推定した2億本で、大体合っているとって良い。

1. フェルミ推定

フェルミ推定は、少ない手がかり（それも、粗っぽい情報）をもとに、素早く論理的に概算値をはじき出すやり方である。研究職の間では「オーダーエスティメーション（order estimation）」とも呼ばれ、コンサルにおいては思考力を鍛える訓練としてよく行われる。

| |
|--|
| フェルミ推定で問題を解いてみよう。 |
| ***** |
| この場合に最も重要なことは、電柱の本数を1本も間違えずに正解することではない。自分の現在持っている情報のみを使い、仮説を立て、正解の近似値を論理的・演繹的（deductive）に求めることである。 |
| ***** |
| 例えばもしこれが入社試験であれば、試験官は答えの正確さではなく、志望者の仮説の立て方や論理展開力を評価する。 |
| ***** |

私の今持っている知識からは、以下のような仮説・推論が出来る。

・日本は、東京を中心として半径1,000km程度の円の中に大体入るくらいの大きさだ。

・太平洋側から日本海側までの日本の「幅」は、大体200kmくらいだ。

・ということで、日本の国土の総面積は大体2,000km×200km=400,000km²だ。

・他方、電柱は農村部や山間部に比べて都市部の方が圧倒的に多いだろう。

・日本の都市部の面積は、衛星写真の街の光を思い出しても、10%以下、5%くらいだろう。

・都市部の電柱は、いつも自分が朝歩いている感覚からして、10m四方おき、つまり1km²あたり10,000本程度だろう。

・農村部や山間部の電柱は、キャンプに行った時のことを思い出すと、100m四方おき、つまり1km²あたり100本程度だろう。

・ということで、日本全国の電柱の数は、400,000km²×5%×10,000本/km²+400,000km²×95%×100本/km²=238,000,000本だ。

以上のような仮説と推論の組み合わせで、日本全国には約2億本の電柱があると推定できる。

| |
|---|
| ***** |
| 実際には日本全国の電柱の数は3,300万本程度である。上で推定した2億本で、大体合っているとって良い。 |
| ***** |

…6倍も離れているじゃないか、と思うだろうか？しかしこれで十分なのである。フェルミ推定はあくまで概算値を求める粗っぽい手法。そして繰り返すが大事なのは、仮説の立て方と論理推論力なのであって、この問題では概算値と真の値とのズレに神経質になってはいけない。

ちなみにネットで「フェルミ推定」を調べると、色々と言説を積み上げた結果、「推定値は3,000万本で、実際の3,300万本とほぼ同じ！」としているページが出てくるが、それは答えを知った上で仮説を「調整」してそれっぽく近づけたインチキな場合がほとんどだ。そのような「調整」は、「そうか、フェルミ推定を行うと、真の値3,300万本に対して3,000万本というかなり近い値を求められるのか」などと読者を勘違いさせかねないので、教育上良くないと思う。

| |
|--------|
| ***** |
| 話を戻そう。 |
| ***** |

こうした手法は、マーケットリサーチにおいてその市場規模を推定する際に使われる。上のフェルミ推定の説明では「概算値と真の値とのズレに神経質になってはいけない」と述べたが、もちろん実際にフェルミ推定を仕事で応用するときには、概算値の精度が求められる。したがって、「手持ちの情報」だけでなく様々な資料集めや調査を行なって、仮説や推論のクオリティを上げていくことになる。

| |
|---------------------------------|
| ***** |
| そしてそのとき重要になる考え方に、MECE（ミーシー）がある。 |
| ***** |

| |
|--|
| ***** |
| MECEは "Mutually Exclusive and Collectively Exhaustive" の頭文字である。訳すと、「互いに排他的で、かつ、全体として余すところの無い」となる。平たく言えば、「ダブリ無く、漏れ無く」である。 |
| ***** |

具体的には、例えばスカウトを「ビーバー」・「カブ」・「ボーイ」・「ベンチャー」・「ローバー」に分けるのがMECEである。「カブとボーイを兼任しているスカウト」などいないので、ダブリはない。また、（スカウトソング「永遠のスカウト」にあるように、一度誓いを立てたら死ぬまで、いや死んだ後もスカウトということだから、リーダーその他もスカウトだとも言えるが、それは置くとして）ボーイスカウトに所属する青少年（世田谷第五団は男しか入れない）はこのどれかに必ず属するから、漏れも無い（もちろん、ガールスカウトなどは除く）。

| |
|--|
| ***** |
| やたら括弧（）の多い文章になってしまったが、この括弧（）の多さ自体が、考えにダブリや漏れがないか配慮するMECE的態度そのものを示している。 |
| ***** |

先の電柱の問題でも、実は仮説の立て方にMECE的方法がとられていた。日本を都市部と農村部・山間部（=都市部以外）に分けて、それぞれ面積を日本全体の5%および95%と仮定したのがそれだ。

都市部と都市部以外だから、当然「互いに排他的」であるし、面積の比率を足すと100%になるから「全体として余すところが無い」と言える。

| |
|---|
| ***** |
| 以上のフェルミ推定やMECEの考え方は、コンサルにおいて大変重要視されている。マーケットリサーチにおいて、様々な状況をMECEとなるようセグメント分けし、MECEな仮説を立て、そこから出発してフェルミ推定を積み重ねていくのだ。 |
| ***** |

| |
|--|
| ***** |
| 説明が長くなった。 |
| ***** |
| それではいよいよ、冒頭の「様々なスカウト活動を通して培った思考プロセスが役に立った」とはどういうことかを話そう。 |
| ***** |

それはつまり、スカウト活動の中にはフェルミ推定やMECEが潜んでいる、ということだ。

| |
|--------------|
| ***** |
| 3. 計測とフェルミ推定 |
| ***** |

スカウトハンドブックの中には、木の高さを計測器を使わずに測るという問題がある。ボーイ隊以上のスカウトであれば、対象の木が作る影の長さ、地面に垂直に立てた枝などの影の長さと枝自体の長さ、そして計算方法（推論方法）としての三角法を使えば良いことを知っているだろう。

| |
|---|
| ***** |
| 今はもうその方法を知っているから当たり前を感じるかもしれないが、最初は相当頭を悩ませたのではないだろうか。 |
| ***** |

そしてよくよく考えると、これは前述したフェルミ推定の思考法に似ている。つまり、手持ちのツールや情報だけを使って仮説を立て、それを論理的に（演繹的に）展開して答えを出すのである。

| |
|--|
| ***** |
| 木の高さ計測はフェルミ推定の例としては精度が良いと思うのであれば、例えばキャンプの食材買い出しはどうだろう。 |
| ***** |

| |
|--|
| ***** |
| 班キャンプでは、1日分とか2日分の班の食材を買うことがある。そのとき班長は、様々な食材をそれぞれの程度買えば良いか、ある程度の精度で推定しなければならない。 |
| ***** |

| |
|---|
| ***** |
| 班員Aは大食い。班員Bはまだ小学生で小食。班員Cはアレルギーで食材Dが食べられない。食材Eは日持ちしない。2日目は山登りするので、その夜は皆たくさん食べるに違いない。予算上限はF円。 |
| ***** |

| |
|--|
| ***** |
| こういった様々な情報や仮説を組み合わせ、推論を重ねてなにをどれだけ買うか決める。冷蔵庫で保管するわけにもいかず、班員の数も6人などとなってくると、食材の推定はなかなか重要なスキルであることが分かるだろう。 |
| ***** |

4.「そなえよつねに」とMECE

ハイキングなどのある程度リスクの高いスカウト活動を計画するとき、事前の安全確保が重要である。

コースのどこに危険があるか。参加スカウトの体力その他の身体的条件はどうであるか。雨が降ったらどうするか。どんな危険な野生動物がいるか。動物とは別に危険な植物は生えていないか。最寄りの病院はどこか。救急箱の準備は出来てるか。

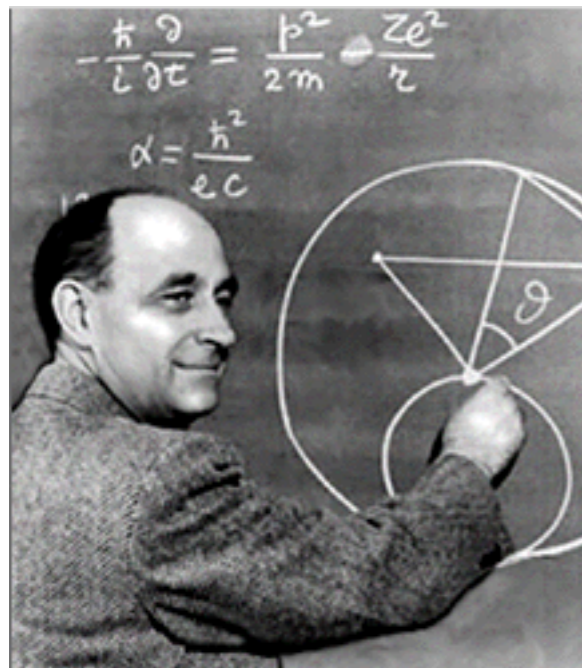
班ハイクの計画書を作成するとき、様々なシチュエーションを少なくとも漏れなく想定することが大切である。その上で、ダブリなく想定事態を整理できればさらに効果的な準備が出来るかもしれない。つまりMECEである。

2019年さくら1月号：【多摩湖サイクリング感想】では、「安全第一」が問題となっていた。それに乗っかれば、「安全第一とは、MECEなリスク把握が出来ていること」だと言えるかもしれない。そしてそれは「そなえよつねに」ということでもある。

ボーイスカウトのモットーである「そなえよつねに」にはMECEが潜んでいる。あるいは「MECEな準備こそが、そなえよつねにの意味である」と私は考える。

つまり、「そなえよつねに」はコンサルの心構えとしても有効なのだ。

フェルミ推定やMECEといった思考法は、スカウト活動やコンサルティング業務に止まらず様々な分野に



において有効である。そして、これらの思考法は、当人の心構え次第ではスカウト活動を通して十分に身に付けることができる。

以上のことは私の実感だが、実はB-Pが『Scouting for Boys』の中で書いていることでもある。

もちろん、B-Pの時代にはフェルミ推定やMECEといった言葉は無い（「フェルミ推定」の由来であるイタリア人物理学者のエンリコ・フェルミは、『Scouting for Boys』出版時、まだ6歳である）。しかし、2017年さくら3月号：【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタイン — 観察と推論 —】で紹介されているように、B-Pは「観察」と「推論」をスカウトが身につけるべきスキルとして重要視した。これはそれぞれMECEとフェルミ推定に対応するといつて良い。

あるいはこう言っても良いかもしれない。スカウトも探偵も科学者も、観察と推論を得意とする点で同じであるならば、MECEとフェルミ推定を使いこなすコンサルもまた、観察と推論のプロフェッショナルという意味で彼らと同じである。

さらに大胆に言おう。

「B-Pはスカウトであり、探偵であり、科学者である。と同時に、コンサルでもあった」

スカウトの皆には、様々なスカウト活動のとき、なんとなく行動するのではなく、なぜその行動をするのかしっかり考える癖をつけてほしい。そうしていれば、もしかしたら将来コンサルになったとき役立つかもしれない。

会議報告

育成会役員会 5月10日(金) 9:00~12:00
玉川総合支所(仮設庁舎) 等々力庁舎 1階会議室
○総会資料印刷
○総会当日に関する打合せ

団会議・団委員会 5月11日(土) 20:00~ 尾山台地区会館第1会議室
★ 各隊報告
★ カントリーデーのプログラム(RS隊担当) 各隊の夏期キャンプ(舎営)等の動画を撮り、編集して発表、等
★ ボーイスカウト講習会 6月2日 駒沢小学校
★ 第24回世界ジャンボリー:5団から4名参加 団より参加費補助(20万円)
★ HPの「さくら」を毎月読んでいますか?(各隊で、保護者やスカウトに確認)・・・自分の隊以外の活動を知るためにも是非読んで欲しい
★ 澤育成会長の慰労会(幹事:横山団委員):6月22日(土) 団会議の後 九品仏「庄屋」17:00~

<令和元年度 定例育成会総会 議事録>

※開会の挨拶

※資格審査:出席者30名、委任状34通、計64名
→ 育成会正会員数の過半数に達しているため総会成立

※議題

- (1) 平成30年度 活動報告、会計報告及び監査報告:承認されました
- (2) 令和元年度 活動計画、予算案:承認されました
- (3) 令和元年度 育成会、団役務奉仕者選任:承認されました
- (4) その他

※令和元年度 育成会 団役務奉仕者

<育成会>

会長 磯田晶子

副会長 舟橋奈緒美 中嶋幸子

書記 菅家純子 榎原友紀

会計 大野一美 原ふみ子

会計監査 長井朗子 杉山明日香

<団委員>

花俣裕二 磯田晶子 高柳彰男 横山和久

山田裕紀 保科千鶴子 小針恭子

<各隊隊長>

ビーバー隊 草嶋隆行

カブ隊 土屋彰男

ボーイ隊 保科潔

ベンチャー隊 山田良磨

ローバー隊 渡口要

※団委員長より挨拶

4/1 現在、登録スカウト数は67名、これは世田谷地区で1番のスカウト数になる。

それに伴い、花俣団委員長は地区の組拡委員長、横山団委員は地区の会計に。数年後、東京連盟が法人化の予定(今までは任意団体)で、一般社団法人化すると加盟員は社員となり、総会では220個団の団委員長が議決権を持つことになる。

- ・BVS、CS、BS改革について
- ・世田谷11団との活動について
- ・今後の長期予定について
- ・尾山台小の物置使用について

※各隊長より活動計画詳細
※磯田育成会長より就任の挨拶
※勇退される澤育成会長より挨拶

<新育成会長・副会長からご挨拶>

育成会長 磯田 晶子

この度育成会長を引き継がせていただきました磯田です。前育成会長澤さんには実に長い間育成会にご尽力をいただきました。ここであらためてお礼を申し上げたいと思います。澤さん どうもありがとうございました。そしてお疲れ様でございました。

澤前会長には 役員の実務をいつもねぎらっていただき、温かいお気遣いに役員会も和みました。

問題が起きた際には「大丈夫です。僕が責任を持ちますから」と力強く支えていただきました。まさに大きな育成会長あつての元気な育成会でいられました。そんなことを思い返しますと、到底自分がお引き受け出来るものでは無かったと自責しながらも、気持ちを切り替えて身を引き締めております。

今年度RS隊に上進しました息子は、BVS隊からたくさんの方々にて育てていただきました。自分も育成会役員他、カブ隊デンリーダー、副長を1年づつ、昨年度は団委員といろいろな立場を経験させていただきました。5団は常に自分の傍らにあり続けてきたように思います。

“スカウトの健全育成のために育成会はいい雰囲気でありたい” 澤前会長が大切にされていたことを引き継ぎたいと思います。誰もが5団に関わることに幸せを感じられるようなそんな育成会でありたいと願っています。

皆様、いつでもご遠慮なくご意見をお寄せください。微力で至らない点が多々あるかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

副会長 舟橋 奈緒美

今年度も副会長を務めさせていただきます舟橋と申します。

学校や家庭ではなかなかできない経験をさせていただけるスカウト活動を微力ながら今年もお手伝いさせていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

副会長 中嶋 幸子

今年度、育成会の副会長を務めさせていただきます中嶋です。

息子は、ビーバー隊から5団にお世話になり、現在ボーイ隊で活動しています。この1年、団の活動が円滑に進むように微力ながらお手伝いさせていただきますので、どうぞよろしく願い致します。

保護者や関係者の方々のお力をお借りする場面があると思いますのでご協力の程よろしく願い致します。



会議予定

6月22日(土) 団委員会・団会議 15:00～(新)奥沢地区会館第1会議室